

## 越智源株式会社

# 特殊繊維加工技術の事業化による新分野開拓

当社は綿糸及びタオルの染色加工を主力事業としているが、綿以外の異素材への特殊加工技術を事業化し、衣服、寝装具用繊維加工など新分野への進出に取り組む。

### 事業取り組みの経緯

#### ●越智源株式会社の特徴及び歴史的背景

当社は大正14年の創業以来、タオル及びタオル用綿糸の染色加工を主力業務としている。加工技術への飽くなき追求によって今治市内を中心とした各タオルメーカーから厚い信頼を得ている。

今治地域を中心とした四国のタオル生産量は中国など安価な輸入品増加の影響を受け、平成3年の50,456トンピークに年々減少し、平成21年には9,381トンにまで減少した。

当社も連動してタオル用の加工高減少を余儀無くされる中、平成15年頃より抗菌加工やUVカット加工などの特殊加工技術の研究に取り組み始め、高品質、高付加価値化に向けた試行錯誤を繰り返してきた。

産地のサプライチェーン全体で「今治タオル」のブランド化に取り組んだ結果、タオル生産量は平成22年より増加に転じ、平成25年には生産量11,146トンに回復している。まさに当社は、吸水性を始めとした厳しい品質基準を設けている「今治タオルのブームを陰から支えている存在」であり、その高度な染色加工技術は取引各社からの評価も非常に高い。

#### ●消費者ニーズの多様化

タオルの素材は基本的には綿であるが、各タオルメーカーは同業者との差別化を目的として綿以外の素材を使用する商品化が増加している。また、タオルメーカー以外からのニーズは綿以外の素材に対する加工依頼も多く、ユーザーニーズは多様化している。

#### ●異素材の加工及び製造能力の課題

麻(リネン)は通気性が良く、清涼感有るといった特徴から夏の素材として用られるケースが多い反面、シワになりやすく水洗いに弱いといった弱点があり、綿ほどは活用されていないのが現状である。

更には麻(リネン)は弾力性に乏しく、織機や編み機にかけづらいといった欠点を持っており、こうした欠点を改善出来るような加工工法の確立が課題であった

麻繊維を織機や編み機にかけやすくするためには繊維に弾力を持たせると共に柔らかくする必要性があった。この点については綿糸サンプル染色用の小型釜を用いた試作開発の結果、実用化が出来るレベルに到達し、小型釜での生産が可能となった。



しかし、大型釜による量産用の対応は出来ておらず、大型釜で加工する場合の最適な加工条件の確立が必要であった。また、近年の「今治タオルブランド」の浸透・拡大を受けて夏用シーツなどの寝装品、夏用の洋服などへの引き合いが増加する中、タオルメーカーから綿糸の染色加工の受注も高水準で推移していた。

取引のあるタオルメーカーからは染色加工能力の拡大を求める声が高まる一方で、麻(リネン)への量産加工依頼にも十分にに応じられない状況となっており、加工能力の拡大が喫緊の課題となっていた。

### 実施内容

#### ●加工技術の最適化



顧客からの大ロットのニーズに対応すべく、上記の大型釜を導入し、適切な加工条件の確立に努めた。

小型釜から大型釜への加工変更にあたってはまず、同浴比にすべく水量の変更と割り出しを行った。加工するリネンの量の比率により水量を割り出し、これを加工水量と確定した。加工量の増加により小型釜時との温度上昇曲線を考慮して小型釜での温度上昇時間と同じになるように蒸気量を決定した。

また、助剤などの使用量も小型釜の使用量を基に大容量釜で加工する量を割り出した。なお、投入のタイミングなどは小型釜で実施したタイミングと同一とした。

小型釜で加工法が確立していたため大容量釜での加工法の確立は比較的容易であり、何度かのテストを経て、大容量釜での加工法が確立された。

小型釜でのデータを基に小型釜で加工した場合と同品質の製品が生産可能のように温度・水量・時間・圧力・助剤使用量などを変えながら適切な加工条件の割り出しに成功した。

## 事業取り組みの成果



【未加工の麻繊維】



【当社加工を施した麻繊維】

### ●生産効率化と優位性

サンプル用小型釜では1回あたりの加工能力が2～5キログラムであったのに対し、1回で600キログラムまで加工可能となった。

また、通常の麻は弾力性に乏しく、こわつきがあったが、当社の加工を施した麻は弾力性に富み、柔らかく、綿と同じように水洗いが可能となった。

### ●収益性の強化と新市場への更なる進出

当初、綿糸以外の麻特殊加工の比率は少なかったが、年々加工量の増加が続き、10倍余となっている。収益にも十分貢献するボリュームに成長しており、今後の更なる進展も期待される。

## 今後の活動予定

### ●高温高圧チーズ染色機の導入による業務効率化

高水準での受注が続いているタオル及びタオル製品の染色加工にも対応可能であるため、タオル以外の繊維製品への進出も同時に果たして業績向上に努めていく。その結果、賃上げや新規雇用の増加も期待出来る。

### ●寝装具メーカーやアパレルメーカーへの販路開拓

過去に引き合いのあったメーカー、展示会や商談会出展による新規見込客に向けて新素材染色加工のデザイン性を訴求した営業活動を行う。同時にシルクなどの新素材の加工技術を確立し、消費者ニーズに即応した商品の開発にも積極的に展開していく。

## 越智源株式会社

■代表者／代表取締役 越智 裕

■本社住所／愛媛県今治市南日吉町1-2-14

■TEL／0898-23-3345

■FAX／0898-23-3757

■設立年月日／昭和38年4月23日

■資本金額／1,500万円

■従業員数／70名

■業 種／繊維雑品染色整理

綿・スフ・麻織物機械染色

■工 場／愛媛県今治市南日吉町1-2-14

### 企業概要

大正14年に今治市で創業。創業当初からタオル及びタオル用綿糸の染色加工を手掛けてきた。染色加工業者は最盛期には今治地域だけで15社以上あったが、タオルの生産量及びメーカー数の減少と共に現在は9社に減少。

近年は高い吸水性等の厳しい品質基準を設けている「今治タオル」のブランド化が功を奏し、地域全体でのタオル生産量も回復した事で当社の業績も回復傾向にある。

### 主要取引先

今井タオル株式会社、七福タオル株式会社、楠橋織物株式会社、上記他多数のタオルメーカー

### 主力商品



#### ●大型染色機

タオル用綿糸を中心にレーヨンポリエステル・ウールなど様々な糸素材をチーズ染色加工が可能。



#### ●スリッター

抗菌加工やUVカットなど、様々な特殊加工を施す事が可能。



#### ●シャーリング機

染色前と染色後の作業をスムーズにさせる事が可能。

### 主な設備

・高温高圧チーズ染色機・チーズ乾燥機・ワインダー・テンター

・スリッター・オーバーマイヤー・液流染色機・シャーリング機

|           |                        |
|-----------|------------------------|
| 担当者       | 総務部部長 村上 典久            |
| 連絡先       | 0898-23-3345           |
| 連絡先E-mail | ochigen@blue.ocn.ne.jp |